

インドで思ったこと その① はじめてのインド訪問

わたしは以前からインドにはあこがれを感じていました。古代、北インドに入ってきたアーリア系の人ひとがバラモン教をおこしました。彼らは数としてのゼロや小数点の概念を確立しそれが世界に広まったことはよく知られています。三天宗教のひとつ仏教は、バラモン教に限界を感じた釈迦が提唱してはじまりアジアや中国、日本に伝来しました。

広大な地域に多民族から複雑な国インドは長くイギリスの植民地でしたが、第二次世界大戦後独立を勝ち取りました。長い独立運動のなかで何億というインド人をまとめあげ、無抵抗・不服従運動を指導したガンジーやネルーをわたしは子供のころから尊敬していました。インドに行くとい生観が変わると云いますが、これまでインドを訪ねたことはありませんでした。

ふとしたことからインド人と知り合いに

ふとしたことから知り合いになり、親しくしているインドの友人がいます。彼は敬虔なヒンズー教徒で日本に来る前にはイギリスやスペイン、ドイツなどで働いた経験があります。十数年前にはじめて東京に来たときに、街の美しさや日本人の優しさに接して「神様がつくった国」にいるように感じたそうです。親や兄弟、親戚おもしろい人で、インド料理店を経営しながら蓄えたお金を仕送して故郷の兄弟や親戚の人々のくらしを支えています。

インド人に限りませんが、外国人が日本で生活していく上で直面する問題のひとつに、漢字まじりの文書があります。日本語で会話はできて文字を読むのは一苦労です。それでボランティア的に何かと相談に乗っていました。

今年の五月に「弟の息子が結婚することになった。

七月にインドに帰るのでこの機会にあなたをインドの結婚式に招待したい」と云われました。固辞していたのですが航空券まで手配してくれたので断ることもできず（これを断つたら日本男子の恥と覚悟をきめました）、七月初旬に彼と一緒に関空からインドへむけ出発しました。飛行機は予定どおり首都のデリーに着。しかしわたしは目的地のことは何も知らず。ただ「デリーの北のほう、車で八時間くらい」とだけ聞かされていました。空港で迎えをうけ車に乗り込み、デリーの北約二〇キロに位置するリシケシ市のシャンプールというところまで、真夜中のごぼご道をクラクションをガンガン鳴らしながら飛ばすことばすこと。荒っぽい運転にまず度肝をぬかれてしまいました。

シャンプールは想像していたより涼しく

ガンジス川を越えたころによつやく明るくなり、山が見えてきました。まわりは農地で、「メヤ」ともろこしに牛の食料、バナナや

首都・デリーの北約二〇キロに位置するリシケシ市



マンゴーなどの栽培がさかんです。想像していたより涼しい気候で、地元の人たちが長袖のシャツを着ているのを見て、暑いところだと思いこんで半袖シャツばかりを持ってきたことに少々不安を覚えました。結婚式の諸行事（四日間）に参加させてもらい、地元の人たちとの交流しながら、あき時間を利用してタジ・マハール観光【一泊 日の旅】やガンジス川沿いにあるヒンズー教の聖地を訪問（のべ三日間）させてもらいました。（つづく）
（もり としあき）



サイエンティストの目

森 利明
(もり としあき)
大阪府立大学先端科学イノベーションセンター

続